

染 香

ぜんこう

福 泉 寺 寺 報
令和7年9月
第 137 号
毎月 1 日発行

ホームページ



おて LINE



Facebook



「いと」と申します

長年、ワンちゃんのブリーダーをされて来たご門徒さんが「最後の仕事にしようと思う」と、おっしゃいまして、緊急家族会議をしました。その結果、

三カ月の女の子を迎えることになりました。

犬種はゴールデンレトリバーという大型犬です。すでに 14 kg ありました。大変淋しがりということで、少なくとも年内は部屋の中で、とのことでした。彼女に「いと」と名づけました。叱る時にはつい、「たえー！」と言ってしま

うので、両方に申し訳ありません。

福泉寺といえば、いつも犬のいるお寺のイメージがあると思いますが、彼らは皆両親の「我が子」でありました。この度は私たち若い家族にとっては「四人目の子」の気持ちです。そんな私たちの『子煩悩』さは省略するとして、私は多くの気づきをいただきました。

我が子の逆縁、そして…

お参り先に、時々ワンちゃんのいる家があります。早くも犬の話題で持ちきりになります。今はいなくても、昔飼っていた時の話もうかがいます。みなさん、一言でいえば「何かと大変だけどかわいい」ですね。

さて、多くの動物の寿命は人間よりも短いです。つまり「ゆりかごから墓場まで」を世話

するということ、ペットを迎えることは基本的に「逆縁」なを経験することになるのだ

と思いました。いくら「1年で20歳まで成長しますよ」なんて言われたり、「うちの子は16歳。人間でいうと100歳かな」と言われたりしても、我が子は我が子ですね。ということは、先立たれたら親を残しての「逆縁」です。奇妙な言い方だけれど「順番通りの逆縁」です。

ということは、ペットと暮らすことは「逆縁の経験を深める」ということなのですね。かわい

いだけじゃ、だめですね。皆さんが、それぞれどんな思いで過ごし、見送ってこられたかを想像する力を、「いと」が育ててくれているような気分です。

いま「いと」は『ヘソ天（ヘソを天井へ向けて寝ている姿）』を満喫しています。前坊守が「極楽気分じゃね」と、目を細めていました。

私はふと「お父さんが元気だったら、きっと喜んだでしょうね」というと「そりやもう、べったりよ」と笑いながら、目を赤くしていました。逆縁を多く経験した両親と、配偶者を送った母の、言葉にできない思いを、忘れずにいよう、機会があれば、大きくなった子どもたちにも伝えたいな、と思いました。

今月は父と、おばあちゃんの三回忌です。皆さまには大変お世話になりました。

（住職）

いまさら仏教！！



【念珠・数珠】

仏教では礼拝の法具として「数珠」を持ちます。真宗では「念珠」といいます。お念仏の回数と阿弥陀さんのお救いは直接関係しないといわれるからです。

ちなみに、キリスト教では「ロザリオ」、イスラム教では「スプハ」、ヒンズー教では「ジャパマラー」という、輪っか状の似たような法具があります。

念珠・数珠では珠の数を決めているグループもあれば、そうでないところもあります。また、「親玉（房の根の大きい珠）」「菩薩（親玉についている）」「弟子玉（左右にある小さい珠）」がそろえば、材料はアクセサリーでも、立派な念珠です。

興味があれば一緒に作りましょう！

ちょっと あたまの こりほぐし

ウシはウシでも
子どもの頃しか持っていない
ウシって、なーんだ？



おてらより

秋の永代経・お彼岸法要

日時：九月二十一日（日）十四時～十六時
講師：三木秀海 師（興正派）

★本堂裏にご家族のお舍利さんが
ある方は、ぜひお参りください。
本堂裏にてお勤めいたします。

施設訪問、出来る時に…

★縁あって、現在二か所の施設の入居しているご門徒さんのところに面会に伺っています。面会、というよりも、楽しくおしゃべりに行くような気分です。もしご希望があればおっしゃってください。

報恩講参り、致します！

期 間：十月一日～一月（予定）
お勤め：正信偈和讃、御文章
★また事前にお伝えいたします。よろしく
お願い申し上げます。

私の手の届かんとこに

かけはじつえん

梯 實 圓 和上の西法寺での最期のご法話を引き続いてご聴聞させていただきましよう。

『…だから、仏さまの前では手放しをして全部おまかせすること、それが信心だ。だから信心つてのはね、いっぺん心得たら、無くなるもんじゃないんだ。そうでしょ。おまかせしますつてのは。任せたんだ。いつまで任せんねん、お浄土へ往くまで任せんねん。

そうでしょ。今日まかして、明日になったら無いようになるなんてそんな信心ちゃうで。ひとたび如来さまにおまかせいたしますと申したならば、その信心は臨終まで一貫して通っている。だからね、私が忘れても如来さまはわすれてくださらん。安心しておまかせをする。これが、浄土真宗の信心と言われるもんなんです。ね。だから、南無阿弥陀仏ということはね、法然聖人がおっしゃってるのはそういう意味。南無阿弥陀仏という声が聞こえたら、もう仏さまは「俺はお前を引き受けとるで、お前を引き受けるから安心しろ」とおっしゃってるんだ。そう言われているんだから、一声一声安心を与えてくださっているんであってね、心配ごとを与えてくださっているのと違うんだから、安心してたええ。それを聞く。その如来さまの仰せをしっかりと聞くことですな。それを法然理人はね「善信房の信心も、如来よりたまはりたる

信心」、如来さまからいただいた心だ。みなさんいただいたはりますわな。信心いただいた覚えないうてと言われるかもしれんけれど、南無阿弥陀仏いただいたいでしょ。結構やないか、それや。南無阿弥陀仏のことやねん、信心っちゃうのは。ちゃんと向こうから入ってくれてはる。そして、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。私の口を動かして、私の耳に聞こえてくださっている。それがお念仏ですよ。「われ称え、われ聞くなれど南無阿弥陀 連れていくぞの 親の喚び声」。こういう詩を詠んだ和上がいらっしゃる。私が称えて、私が聞いているけれど、南無阿弥陀仏っていうのは仏さまが一声一声、「お浄土へ連れていくでな、心配するなよ、安心して私に任せなさいや、何にも心配いらんでな」こうおっしゃってくださっている。そこで「左様でございますか、えらいご厄介おかけしまして申しわけありませんが、ありがとうございます」って如来さまにおまかせすりやそれでいい。それが浄土真宗の信心っていうものだ。だけどこれはね、ともすれば信心っちゅうたら、自分がしっかりして、自分がはっきりならないかと思いとりやすいんだ。何でかという、そんなことばかりこの世で習ってきたんだ。生まれてくるとき、何にも知らんで生まれてきたんだし、死ぬときは何にも知らんまま死んでいくんだっていうことをね、そんなこと教えてくれなんだ。せやろ。はじめとおわりゼロでっせ。その代わ

りどんな学者であろうと、たとえノーベル賞もらっていようと、亡くなっていくときは置いていかなあかんで。そらそうや。昔の人はね、自分の本質はそういうもんだっていうことをしっかりと見定めて、その上で生きていたんだ。ひとつひとつ積み重ねて、賢くなって、偉くなって、金積み重ねるように知識も積み重ねてと、思ってただろうけどね、全部役に立たなくなる。覚えたことも知ったことも全部役に立たなくなる。自分の名前も分からんようになってしまう。その何にも分からんものを、黙って引き受けて、その何にも分からんものを、大事に育て育み、そしてお浄土へおくってくださいる。

これは如来さまのお仕事だ。「いのち」は、仏さまにあずけておくことです。賢いとか、賢くないとかいうのはこの世でね、人間同士がワーワー言うて騒ぐだけのこっちゃ、あんなもん大したことない。ほんとの「いのち」になってきたら、人間には指一本触ることはできません。生まれてくるとも死ぬことも、人間の手の届かん話だ。その手の届かんとこを、しっかりと見届けとくことですな。…」

（星野親行『あたりまえの不思議Ⅲ』）



くちよつと先のご案内く

今年の報恩講は

横浜の「俱生院なごみ庵」というお寺のご住職「浦上哲也」さんと、その坊守様の「浦上智照」さんをお招きします。不思議なご縁で出あいました。坊守様は舞台女優さんでもあり、この度は「金子みすゞの詩の朗読」をお願いしようと思っております。しかも、金子みすゞさんのお母様に扮して「娘に先立たれた母親が、娘の遺した詩をよむ」という一味加えた構成とうかがっています。

ご準備にご協力くださるお方は、よろしければお寺迄お声掛けくださいませ。

日時…十二月七日（日）

朝席十時 昼席十二時

★お斎も御支度いたします

来年のお盆法要は

駅家町にある「のじまホームクリニック」の野島洋樹（ひろき）医師をお招きして、「医師×僧侶」のトークセッションをしたいと思います。「医療×仏教」私たちが納得できる人生の歩み」の糸口を、皆さんと探してみたいと思います。野島医師にはご快諾いただきまして感謝申し上げます。